

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市沖野デイサービスセンター
2	指定管理者	社会福祉法人仙台市社会事業協会
3	指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》</p> <p>平成30年度 5,046人（前年度比 95.4%） 平成29年度 5,290人（前年度比 100.7%） 平成28年度 5,251人（前年度比 104.3%）</p> <p>《事業》 個別ケアの実施、機能回復訓練の実施、行事等の実施、お花見、お食事会、バラ観賞、お買物ツアー、七夕製作、七夕ドライブ、敬老会、運動会、クリスマス忘年会、初詣、民謡教室、絵手紙教室、世代間交流、体験利用の実施、家庭菜園、節分、ひな祭り製作、等</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p style="text-align: right;">（ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 ※利用料金制を採用しているため、指定管理料の支出はない ・ その他市が負担した費用 135千円 （6,921千円） <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 40,487千円 （55,198千円） ・ その他収入 91千円 （48千円）
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <p>利用者アンケートを実施し、結果を公表及び検討の上実施した。その他、サービス担当者会議やご利用時に出していただいたご意見についても、その都度検討、実施・実現に努めた。</p>

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	<p>デイサービスセンターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。</p> <p>また、利用者の健康相談や公平・公正な利用、要介護者の心身の特性に配慮した対応に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。</p>	30/30
II 施設の運営管理体制	<p>必要数の職員が配置されており、各職員は他の職員の業務状況を把握している。経理処理も書類作成など適正に行われている。</p> <p>また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定めるとともに、職員への周知等により意識啓発を行い、個人情報保護に対する体制を整えている。</p> <p>事故や災害の発生に備えて、連絡体制や職員の役割分担を予め決めていくなど、対応体制を構築している。</p>	24/24
III 施設・設備の維持管理	<p>利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、建築物の保守点検や施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のための館内巡回も行われている。</p> <p>また、節電やごみ発生の抑制、グリーン購入を実施するなど、環境に配慮した施設運営を行っている。</p>	24/24
IV サービスの質の向上	<p>利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な対応と分かりやすい説明を心がけている。</p> <p>また、利用者の意見や苦情に対し、その対応手順や担当者を明確にするとともに、利用者アンケートを年1回は行うなど、利用者の意見を反映した施設運営に努めている。さらに、広報誌の発行などを通じ、利用者等への情報提供や施設のPRも積極的に行っている。</p>	28/28
V 施設固有の基準	<p>介護技術向上のための定期的な研修実施や、職員間での情報交換など、サービスの質を向上させる取組を行っている。</p> <p>また、関係機関と定期的な会議を開催することにより、日常的な連携体制を構築し、関係機関からの情報収集と利用者への情報提供に努めている。</p>	8/8

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市社会事業協会）による自己評価》
<p>施設の目的や基本方針等館内に掲示して利用者に周知し、月1回開催する事業所会議等においても、年度ごとの重点目標も含め全職員間で共有している。施設の運営管理面では、毎月税理士による監査を行う等適正な予算管理に努め、業務省力や経費節約等について職員間にも周知して取組んでいる。個人情報保護に関する管理体制の下セキュリティ対策を構築、外部研修等の機会等を通して職員への啓発を行っている。事故対策については、リスクマネジメント委員会を立ち上げ、事故報告書やひやりはっと報告書等を作成して職員間で共有し再発防止に取り組んだ他、年2回利用者も参加して防災訓練を実施した。節電やリサイクル等、仙台市環境行動計画に則った取組みを継続して行ったほか、利用者が快適で安全に過ごせる環境づくりを徹底し設備の保守点検や清掃、環境整備に努めた。サービスの質の向上については、アンケートや連絡帳、担当ケアマネジャーからの情報から利用者のニーズを把握するとともに、日常のコミュニケーション場面からもサービス提供上の課題等抽出し、事業運営に反映できるよう取組んできた。ICT化(介護保険用記録ソフトとタブレットを導入)により、職員間での情報共有と記録業務の省力化に繋げた。非常勤職員も含め外部研修会に積極的に参加し、伝達研修や復命書で職員間で共有しスキルアップに努めた。広報活動では、月1回発行する広報誌を町内会や近隣の商店、関係機関に配布した他、ホームページにセンターのブログを定期掲載しPRに努めた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度の管理運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。 外部研修について全職員に参加を促したり、交換研修の受け入れにより外部との接触機会を設けるなど、職員の資質向上にも積極的に取り組んでおり、事故対策としてリスクマネジメント委員会を立ち上げ、再発防止に努めるなど高く評価できる。 利用者に対しても帰宅時間のニーズへの対応や、必要と判断した場合は要支援利用者の規定回数以上の受け入れを行うなど、利用者本位のサービス提供に努めているほか、今年度より、タブレットなどの導入を行い、職員間での利用者情報の共有やケア記録システムとの連動を行い、サービスの向上に努めている。 そのほか併設の老人福祉センターの様々な行事への参加や、近隣の保育園との世代間交流を行うなど、関係機関や地域と連携しての事業展開も実施しており、総合的に高く評価できる。</p>	<p>S</p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保険高齢部高齢企画課